

研修報告

研修促進費を使って参加した研修、の報告会です。

ご協力いただき、どうもありがとうございました。

3		研修日	大会名など	研修場所	研修者	執行額	
4	1	2024/7/29.	MLA研修 これからの教育から子供たちの育ちを支える学 教環境づくりを考える（市立豊明高等支援学校研究会）	北海道武蔵女子短期大学	須藤、皆月、田 中、奈良、古田	3,189	
5	2	2024/7/30.	北海道特別支援教育研究協議会 全道研究大会	白樺高等養護学校	宮下、若林	1,887	
6	3	2024/8/1.2	北海道特別支援教育センター配布レックス研修4（心理ア セスメントコースW I S C - V）	特別教育支援センター	島山	2200	
7	4	2024/8/2.	北星学園大学障害児教育夏季セミナー	北星学園大学50周年記念ホー ル	白山、成田、田中	2,700	
8	5	2024/8/5.	令和6年度ケアラー支援関係機関職員など研修（応用研 修）	第二水産ビル	清水	680	
9	6	2024/8/7.	星槎大学セミナー&学びの多様化学校実践報告会	札幌エルプラザ	若林	680	
10	7	2024/8/9.	令和6年度北海道星置養護学校ほしみ高等学園研究発表会	北海道星置養護学校ほしみ高等 学年	古田	0	外勤扱い
11	8	2024/10/9.	北海道小樽高等支援学校視察	北海道小樽高等支援学校	鈴木、柿崎、斎藤	444	
12	9	2024/11/21～ 23.	全日本特別支援教育研究連盟全国大会（福井大会）	福井県福井市	宮下	64,620	
13	10	2024/11/21.	ひまこもり&発達障がい支援を学ぶ地域作りセミナー	かでの2、7	須藤、島山	1,360	
14	11	2024/12/16.	部活動の地域移行フォーラム	かでの2、7	清田、清水、矢幅	1,360	
15	12	2024/12/19.	令和6年度地域連携セミナー 札幌少年鑑別所	札幌少年鑑別所	田中、近藤	1,764	
16	13	2024/12/23.	令和6年度北海道小樽高等支援学校公開研究協議会	小樽高等支援学校	清田	1,080	
17	14	2024/12/23.	令和6年度ケアラー支援関係機関職員等研修	第二水産ビル	若林	680	
18	15	2025/1/15.	心理アセスメントコース研修	北海道立特別支援教育センター	須藤、白岩	2,740	
19	16	2025/2/24.	あいの里高等支援学校（外国語の視察）	あいの里の高等支援学校	上坂、島山	1,880	
20					合計	87,264	
21					予算額	131,000	
22					差額	43,736	円

R6年度の 執行状況

予算 131,000円

執行 87,264円

①MLA研修 これからの教育から子供たちの育ちを支える学教環境づくりを考える

須藤,皆月,田中,奈良,吉田

○研修内容

1 プロアクティブな生徒指導とは

～これからの教育：MLAマルチレベルアプローチとは～ 講演

広島大学人間社会科学研究科教授

栗原慎二

2 各校の実践例

札幌市立南郷小学校

札幌市立藤野南小学校

札幌市立豊明高等支援学校

⇒ここは以前稲穂でお話いただいた
菅原尚俊先生でした

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 令和4年改定の生徒指導提要の提言を受けて、これからの生徒指導においては常に先行的（プロアクティブ）な生徒指導の創意工夫が一層必要になるということ。
- 2 生徒指導の実践にあたっては、「自己存在感の感受」や「共感的な人間関係を育成」と「安心・安全な学校風土づくり」が必要になる。

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 発達支持的な生徒指導及び課題未然防止教育のための学校一丸となったチーム支援が展開できる環境整備
- 2 多様な生徒が安心・安全を感じられる学校風土醸成のための教員個々の努力と創意工夫

②北海道特別支援教育研究協議会 全道研究大会

宮下、若林

○研修内容

1 自立活動の指導

2 地域との連携／交流及び共同学習

☆稲穂へ還元できること（成果）

1 自立活動は特別支援の醍醐味である。そこは指導要領や他の教科と連携しながら効率よく計画を立てるとよい。

2 交流ありきでは意味がない。何のための行事であるのか、双方の生徒にとってなにが有意義であるのか（学習する意味がある）明確にするべき

▲稲穂で取り組む際の課題

1 自立活動の職員研修が足りない
⇒教員の理解度に応じて、取り組みに差がうまれる。

2 地域での活動は学科や教科などで取り組みがある。それが担当レベルでの活動になっている
⇒「稲穂」として、組織的に取り組み整理する必要がある。

③北海道特別支援教育センターハイフレックス研修4

富山

○研修内容

- 1 アセスメントの意義と心理検査の活用
- 2 WISC-Vの概要と実施方法、検査結果の解釈
- 3 田中ビネー知能検査Vの概要と実施方法、検査結果の解釈

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 アセスメントを正しく行える有効な手段としてさまざまな心理検査があること
- 2 WISC-Vと田中ビネー知能検査Vの概要や検査結果の解釈方法を周知できること

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 検査資格の厳格化と内容の複雑化
※特にWISC-Vは資格がより厳格になっている
- 2 検査に必要な用具の購入と準備費用

④北星学園大学障害児教育夏季セミナー

白山、成田、田中

○研修内容

講演 横浜国立大学大学院教育学研究科

教授 渡辺匡隆（わたなべ まさたか）

1、講演「自閉スペクトラム症のある子どもの人間関係の形成」

2、事例研究「学童期におけるASD児の集団参加の支援」

☆稲穂へ還元できること（成果）

1 課題解決に向けた専門機関への協力依頼

▲稲穂で取り組む際の課題（事例の中で、支援者の反省したことから）

- ・支援者の「できる」という思い込みの除去
- ・見かけに戸惑わされない
- ・ニーズや意思を表明する機会の設定と尊重
- ・自分と向き合えることができる支持的環境
- ・本人も保護者も強化が基本
- ・自らの問題であることを理解する支援
- ・「今生きるために必要な」課題設定
- ・達成可能な目標設定
- ・達成した内容に関するフィードバック
- ・自分の特性や行動特徴に関する気づきの強化（強みや良さに関するフィードバック）

⑤⑭令和6年度ケアラー支援関係機関職員など研修

清水、若林

○研修内容

- 1 ケアラーのニーズを考える
- 2 ケアラーへの支援を考える

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 積極的に関係機関や行政と連携を取ってケース会議などを開く
- 2

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 関係機関と連携をとるにも、お互いの実情がわかっていない可能性が高い
- 2 R5研修に比べても分野として整理されてきている一方、インフォーマルな資源の利用も前提として知っている必要がある

⑥星槎大学セミナー&学びの多様化学校実践報告会

若林

○研修内容

- 1 個別最適化の学びを保障する
 - ・「指導の個別化」一定の目標を全ての子ども達が達成するため、自分に合った学習方法で学ぶ
 - ・「学習の個別化」学習者本人が興味関心にそってどのような方向性で学習をするか自己決定すること
- 2 応用行動分析の考え方を生かす
 - ・良いとき（普通るとき）はどんな状況か、この状況を維持する
 - ・環境（働きかけ）を変える
 - ・アセスメントのルーティン化

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 一人一人の目標に照らした支援という視点の再確認ができたこと

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 指導グループの活用
- 2 「新たに創る」意識
「～ねばならない」が強くなる→
組織を動かすことに注力してしまう→
去年の「目的」を全て消し0から考える

⑦令和6年度北海道星置養護学校ほしみ高等学園研究発表会 他

吉田

○研修内容

1 「一人一人の学びに注目した 教育活動の推進（Ⅱ）」

～学習の振り返りによる授業改善プロセスの構築に関する研究～

2 「一人一人の実態に合わせた 授業づくり」

～すべては生徒の笑顔のために～

3 学習活動の紹介

4 講演

「近年の国の動向を踏まえた知的障がいのある
児童生徒の授業づくり、授業改善について」

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 教材・教具の工夫
- 2 展示の工夫、製品の活用（名刺）
- 3 教育課程（1・2帯、3・4グループ、午後芸体類）

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 構造上の問題
（教場の大きさ・グラウンド）
- 2 普通科（コース制）
2、3年縦割り学習



応急手当普及員講習



105×105×150cm

⑧北海道小樽高等支援学校視察

鈴木、柿崎、斎藤



○研修内容

1 Cafeポッポリーの活動について

2 家庭総合科作業学習の見学



☆稲穂へ還元できること（成果）

1 地域との関わり～ポスティング
マーケティング
営業の継続

2 学科としてのマニュアルを作成し、基本をスタート時から同じスタンスで学ばせる（生徒の特性や実態に合わせて少しアレンジしていく）

3 他学科と協力して取り組む（学校として取り組む）

▲稲穂で取り組む際の課題

1 年間を通しての継続した活動が難しい
2 施設設備上、地域に向けたカフェ活動が出来ない

⑨全日本特別支援教育研究連盟全国大会（福井大会）

宮下

○研修内容

1 学校見学

2 自立と社会参加にむけたキャリア教育

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 地域に必要とされる学校づくりを行っている。そのため、地域を巻き込んで学習活動を行うことが当たり前。
（各教員の意識）
- 2 小学校段階からライフキャリアの虹の考えに基づき、キャリア教育は自立活動の中で取り組まれている。

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 取り組みの中身は負けていない。でも、アピール力に大きな差がある。
- 2 キャリア教育は、生徒が自分事として考えることが前提。主体性を引き出すには、その学習の必然性を理解することが必要。その仕組みが不足している。

⑩ひきこもり & 発達障がい支援を学ぶ地域作りセミナー

須藤、**畠山**

○研修内容

- 1 8050問題への向き合い方と支援アプローチ
- 2 家計支援を活用した8050世帯への支援の実際
- 3 発達障がい支援をベースとした8050問題へのモデル的アプローチ
- 4 8050問題へのアプローチにおける連携、地域づくり

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 ひきこもり当事者と段階を踏まえた信頼関係を構築すること
- 2 ひきこもり当事者が自己決定できるようにし、尊重すること
- 3 石狩市ひきこもりサポートセンターやはるにれの里の充実した支援活動を知ることができたこと

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 ひきこもり傾向のある生徒や家庭の支援、関係機関との連携体制の構築や充実
- 2 ひきこもり傾向のある生徒や家庭の対応方法について外部講師も交えた研修を行えるようにすること（不登校生徒の対応、支援にもつながりやすい）

⑪部活動の地域移行フォーラム

清田、清水、矢幅

○研修内容

1 講演「部活動の地域移行・地域クラブへの移行と地域スポーツ環境の整備」

2 パネルディスカッション

「子どもたちの持続可能なスポーツ環境再構築に向けて」

☆稲穂へ還元できること（成果）

1 単一種目ではなく、複数種目の参加を可能とする部活動

2 外部指導社の有効活用

3 地域、他校との連携

▲稲穂で取り組む際の課題

1 全職員の共通理解（国が進めようとしている部活動改革について）

2 現場と地域、外部指導者などコーディネーションする役割を誰が行うか

⑫令和6年度地域連携セミナー 札幌少年鑑別所

田中、近藤

○研修内容

1 札幌矯正管区の再犯防止施策の取り組みについて

→発達障がいを抱えている入院者比率の増加

→地域、農業、学校出前授業

2 所内見学

→自分を見つめる一人部屋

3 少年鑑別所の取り組みについて

→情報提供、助言、各種調査、心理的援助、講演研修、地域活動

☆稲穂へ還元できること（成果）

1 発達障がい、境界知能の定義を踏まえ、社会の実態と本校生徒の実態把握を

2 地域援助(非行防止・健全育成)を活用した指導連携

▲稲穂で取り組む際の課題

1 逸脱行為への対応

→障がいは非行・犯罪の直接的原因ではないが、行動・供述は特徴的

2 敷居の高さ

→家庭裁判所にも少年相談業務があるが

⑬令和6年度北海道小樽高等支援学校公開研究協議会

清田

○研修内容

- 1 公開授業に関する協議
- 2 研修会
「だれもが行きたくなる
学校づくり」
- 3 研修会
ワークショップ

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 協同学習（学力面、集団の成長）
- 2 SEL（個人の成長）

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 グループ学習と協同学習の違いを理解した
上での取り組み。
- 2 SSTとSELの違いを理解すること。
SELを道徳教育に取り入れることができる
領域ではあるが、カリキュラムの見直しが必要。

⑮心理アセスメントコース研修（特セン）

須藤、白岩

○研修内容

- 1 アセスメントの意義と心理検査の活用
- 2 心理検査の概要
- 3 心理検査の実施方法
- 4 検査結果の解釈
- 5 事例を用いた検査結果の分析

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 アセスメントの意義と心理検査の活用方法の説明
- 2 WISC-Vの概要や検査結果の解釈を説明

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 これまでと違い、医師など有資格者しかかけることができない。
- 2 検査結果がすべてではなく、その結果からどのように指導に活かすかが重要

⑩あいの里の高等支援学校視察（外国語）

畠山、上坂

○研修内容

- 1 授業視察
- 2 授業担当者より
外国語指導方針の説明

☆稲穂へ還元できること（成果）

- 1 生きた英語を取り入れる機会の充実
（視聴覚教材の充実）
- 2 担当教員間の目的の共通認識

▲稲穂で取り組む際の課題

- 1 授業成果に対する教員の意識
（結果が出ないことを生徒実態のせいにせず
指導側の力量・授業の魅力のなさと感じれるか）

次年度の研修促進費の支出について

• 学校課題の解決のための研修

- ⇒担当から声をかけます。
- ⇒輪番で研修に行っていただきます。
(数学、保健体育、情報、生産技術科、情報文化部)

• 先生方の個人研修

- ⇒回覧をご覧ください。

【参加の手順】 ＊支出が必要な場合

教務の分掌内で支出の検討 ⇒管理職に確認 ⇒
⇒研修者本人が申し込み ⇒出張伺 & 復命書の記入 ⇒環流報告

【勤務時間内のオンライン（オンデマンド）参加の場合】

研修者本人が申し込み ⇒研修日時を管理職に報告